

3年ぶりの懇親山行 in 大菩薩 登下山は多ルートで

登山教室 PT 村岡庸こ

懇親山行は登山教室修了生を対象に行われていたが、コロナによって中断し、3年ぶりに復活。今回は2022～24年に入会した教室修了生とともに、一般入会の方も対象とした。参加者はスタッフを含め16名。10月26(土)・27日(日)に都立武蔵高校の大菩薩ヒュッテに宿泊し、集中山行を行った。

初日は丸川峠コースと唐松尾根コースに6名ずつが参加。スタッフ4名は直接ヒュッテへ。丸川峠隊は大菩薩峠入口を出発。丸川峠では富士山の展望



雷岩から南アルプスを望む

がよく、雷岩からは富士山や南アルプスの稜線が一望できた。約10kmの道のりを軽快に歩き16時にヒュッテ着。唐松尾根隊は上日川峠から唐松尾根を登り大菩薩嶺を往復、15時過ぎヒュッテ着。ヒュッテでは先着のスタッフが、冷たい飲み物と温かい焼き芋で出迎えてくれた。夜は手作りの料理と酒を堪能した後、薪ストーブや食卓を囲みながら懇親を深めたり、満天の星空を眺めたり。日帰り山行では味わえない時間を過ごした。

2日目は上日川峠と小屋平から4名が下山し、12名が山梨百名山の源次郎岳を目指す。上日川峠から先は

多くの参加者にとって未踏の道だ。開放感があって歩きやすい。ブナの巨樹を過ぎ、熊が齧った道標のある三俣分岐から急降、急登を行くと広々とした源次郎岳に到着。昼食後、長い道のりを行く恩若ノ峰隊と、短い道のりの嵯峨塩鉱泉隊6名ずつに分かれる。恩若ノ峰隊のルートは足場の悪い急斜面もあり、緊張を強いられながら15時半に塩山駅着。嵯峨塩鉱泉隊は三俣分岐まで登り返し、笹原のなだらかな道を下って、嵯峨塩バス停に13時着。どちらも黄金に色づく黄葉に包まれ、達成感のある山歩きができた。今後も懇親山行を行い、多くの方に楽しんでほしい。



木立に包まれた大菩薩ヒュッテの前で

目次

1. 懇親山行 大菩薩で3年ぶりに開催	6. 総務15周年記念講演会・懇親会案内	12. 初級11月 六ツ石山
2. 本部 晩餐会	6. 安全対策 講習会「冬山の医療」	13. 初級12月 高川山
2. 本部 晩餐会記念講演会	7. 山行平日11月 官ノ倉山/12月 石割山	14. 中級10月 十二ヶ岳(御坂)
3. 本部 晩餐会記念山行 鋸山	8. 山行 定例10月 天狗山・男山	14. 中級11月 塔ノ岳(丹沢)
3. 南関東三支部合同懇親山行 物見山	9. 山行 定例10月 鍋割山(赤城山)	15. 他支部交流山行 雲取山/大崩山
4. 奥多摩 BC 座禅会	9. 山行 定例11月 掃部ヶ岳(榛名山)	16. 多摩支部の人々 大蔵喜福氏
4. 奥多摩 BC 見晴らしの丘散策と芋煮会	10. 山行 定例12月 黒岳(御坂)	17. インフォメーション/絵画展案内
5. 自然保護 講演会「登山道の維持管理」	10. 低山を楽しむ会 雷電山(青梅丘陵)	18-19. 支部連絡会議、議事録、表
5. 自然保護 ミツ峠アツモリソウ保護	11. 初級10月 川苔山(ミニレボ中山仙境)	20. カレンダー、会報広報委員会通知他

晩餐会に東京多摩支部から35名が参加

野口いづみ



壇上にあがった多摩支部のメンバー

12月7日に新宿の京王プラザホテルにて令和6年度晩餐会が開催された。参加者は319名で、多摩支部からは35名が参加した。野口の席では多摩支部3名、埼玉、神奈川支部の他、東九州、福島と、全国からの会員がテーブルを囲んだ。橋本会長の挨拶後、物故会員への黙とう、新永年会員と新入会員の紹介が行われた。続いて、秩父宮記念山岳賞を受賞したヒマラヤ形成史研究の酒井治孝氏とライチョウ復活プロジェクトの中村浩志氏が挨拶した。高額寄付者の上原充氏へ感謝状が贈呈され、ヒマラ

ヤ未踏峰ブンギに初登頂した学生部登山隊や、西ネパールのサンクチュアリピークに初登頂したヒマラヤキャンプ隊の隊員たちの紹介と挨拶もあった。その後、39のテーブルで交歓が行われ、最後は各支部の紹介があり、それぞれの支部員が段上に上がって氣勢を上げた。私は熊野古道で交歓した地方の方々や、毎年、晩餐会でお会いする方々とも久しぶりにお会いでき、1年の良い締めくくりとなった。身も心も温まって帰路についた。

令和6年度年次晩餐会記念講演会開催 — 天皇陛下もご臨席 —

中原三佐代、太田雄三

標題の講演会はエクアドル大使によるエクアドルの紹介から始まった。魅力たっぷりの国と知り、訪れたい国になった。最初の講演は、グレートヒマラヤトラバース報告で、6回目となるインドヒマラヤの踏査であった。重廣隊長から踏査の成果、ヒンズー教の三大聖地巡り、ダラムサラ訪問の様子が語られた。飯田隊員から装備品の紹介があり興味深かった。カンヤツェII峰を断念せざるを得なかった中村隊員の無念な思いが切々と語られ胸に迫った。続いて酒井治孝氏による秩父宮記念山岳受賞記念講演「私のヒマラヤ山脈形成史の研究」が報告された。ネパールの大学で地質学の講師を務めた事もきっかけとなり、ヒマラヤ山脈の形成を解明する地球科学の研究を志したという。ネパールに学校をつくる教育支援も長年続けていられるとのこと。(中原)



酒井氏(左)と橋本会長と中村氏(右)

後半は記念講演の信州大学名誉教授・中村浩志先生の「甦った神の鳥・雷鳥」の講演が行われた。絶滅危惧種のライチョウの繁殖にも取り組み、実際に成果を上げているのは素晴らしいことと思われた。最後の特別講演では菊池氏による写真撮影時の構図についてわかりやすい説明があった。司会の萩原浩司氏との掛け合いもあり、講演時間の過ぎるのが早く感じられた。

最後に満場の拍手の中、天皇陛下がご退席されて、充実した講演会が終了した。(太田)

＜晩餐会記念山行＞

鋸山 —房総の遺構、石を運ぶ道とひかる海— 西山さより

晩餐会翌日の12月8日に晩餐会記念山行が本部山行委員会と千葉支部共催で房総・鋸山で行われ、全国から35名が参加した。多摩支部から近藤（雅）、清水（茂）、西山、中原（本部山行委員会）の4名が参加した。9時半、無人改札のJR浜金谷駅前には山岳会の面々が集まっていた。9時50分、千葉支部長が山行リーダーとなり、3班に分かれ出発。各班に支部員の班リーダーが入り、金谷の町の中を歩きぬけて車力道分岐へ。車力道は鋸山から切り出した「房州石」を麓まで荷車で運びおろした轍の残る道だ。登山道としては歩きやすいが、240kgを乗せた荷車を制御するのは女性だったとか、想像がつかない。山腹の石切場、猫丁場は往年の石工が石壁に猫を彫ったあとで、すぐ横に石塊をハート型にくりぬいた写真スポットは復興事業の一環だそう。

展望台302mに上がると東京湾が一望でき、視界は千葉の山並み富山・伊予ヶ岳まで広がる。房総半島の海岸線が南に伸びて海と陸を分けているさまは山に分け入る登山と違う感慨がある。20分で着く山頂は地味な山名標のある329m。一等三角点にタッチして折り返し、展望台下で昼食にした。全体写真を撮って一部散会下山。見上げる石壁と切り出しの跡に「遺構」の重みを感じつつ、観月台コースを下り、14時55分、浜金谷港から出る船で帰路に着いた。（写真/中原）



房総半島の海岸線が海と陸を分けている



神奈川・千葉・多摩の会員集合
鋸山山頂にて

南関東三支部合同懇親山行

— 田部井淳子さんを偲ぶ命日登山 —

林理恵子

10月20日、埼玉支部主催の表記登山が開催された。参加者は33名で多摩支部からは10名が参加した。当日は2016年に77歳で亡くなった田部井さんの命日で、コースは田部井さんがリハビリに通ったルートとのことだった。9:30に高麗駅を出発し、日和田山登山口の駐車場にある田部井さんの記念碑に立ち寄った。そこから日和田山への登りが始まった。天候は快晴で、汗ばむ陽気の中、女坂を登りきると金刀比羅神社に着いた。視界が開け、のどかな風景を眺めながらしばし心を和ませる。さらに神社裏の道を少し進むと日和田山山頂（305m）に着き、東京方面の展望を楽しむことができた。小休止後、物見山へ向かう。12:00に物見山山頂（375m）に到着。田部井さんの写真が飾られ、人々で賑わっていた。12:40からセレモニーが始まり、夫の政伸さんやご子息の進也さんが挨拶された。田部井さん作詞の「山ってやっぱり楽しいよ」を皆で歌った。13:00解散となり、本隊はピストンで高麗駅に戻るとのことだったが、多摩支部は3手に分かれて下山した。

河野、西山、林隊は高麗駅まで最短ルートの南西尾根を下った。野口、川島、齋藤、富永、大和の5名は東側のルートを下り、近藤、安藤は東尾根の藪を漕いで、それぞれ、富士山（220m）と高麗神社に寄って帰った。埼玉支部の皆様のご尽力に深く感謝する。
（写真/埼玉支部）



セレモニーの行われた
物見山山頂にて

＜奥多摩 BC 運営委員会＞

座禅会を初めて開催 —奥多摩で心身を整える—

山内ひとみ

座禅会は初めての試みで、参加者は支部員が石川と菅野（玲）、委員が木村、坂井、富澤、中村（敦）、西村、山内の計8名だった。10月5日はハイキングの予定だったが雨のため中止。早めに集まった4人は「三河屋」で入浴する。17時半、懇親会開始。「山鳩」の美味しいお弁当と、持ち寄ったお酒やつまみを囲み会話が弾む。

翌朝、6時過ぎに凜とした空気の中を歩いて曹洞宗慈眼寺に向かう。6時半から座禅会。ご住職に座禅の作法を聞く。窓が開け放された本堂で外に向き座禅開始。座蒲（座禅用クッション）に着座し身体と呼吸を整え、心も整える。希望者は警策で右肩を叩いて頂く。ご住職は「怖くない座禅を目指している」とのこと。警策は励ましの意味と「人のアドバイスを真摯に受け止めましょう」という教えも込められているようだ。鐘が鳴り座禅終了。あっという間の20分感じた。座禅の後は朝粥。食や器の意味、食べ方の所作を聞き、無言で粥、香の物、胡麻塩を頂く（お土産匙付き）。法話をお聞きして、お経を唱えて頂き、8時終了。清々しい気持ちでBCに帰る。多くの外国人も体験に来ているとのこと。「桜の時期も良いですよ」と住職。次回開催を考えることにした。解散後は5名で心身ともに軽やかに大多摩トレイルを古里駅まで歩いた。

(写真/中村(敦))



早朝から座禅開始
その後、朝食も供されて



慈眼寺の前で住職に送られて

＜奥多摩 BC 運営委員会＞

見晴らしの丘散策と芋煮会

中村敦子

11月9日(土)、散策と芋煮会を実施した。9:45、ハイキング参加者9名は奥多摩駅前に集合し、奥多摩湖へ。見晴らしの丘登り口から奥多摩湖を見下ろしながら歩く。八方岩展望台を經由して丘を一周した。石井委員から奥多摩湖の歴史などを聞く。湖面がキラキラと輝き、周りの山々が紅葉でオレンジ色となった素晴らしい景色を堪能し、11:40の奥多摩湖発のバスでBCに向かった。

芋煮会からの参加者3名も来室し、12:30から裏庭で芋煮会を始める。風があり寒かったが、熱い芋煮がとても美味しかった。南氷川自治会の会長・副会長と、川乗山安全登山キャンペーン終了後の都岳連の廣川会長と、安全対策委員会の川瀬委員が加わって、賑やかな懇親会になった。陽が陰ると寒さが身に染みてきたので、集会室に戻り談笑が続いた。

スケッチクラブの絵も見ていただき、15:30終了。初参加の方も多く交流ができ、BCの役目が果たせていると感じた。参加者は19名で、秋田、太田、岡、小部、菊川、辻橋、松尾、真鍋、川瀬、廣川、南氷川自治会（会長・副会長）、委員は石井、木村、坂井、中村（敦）、西村（章）、松田、山内だった。

(写真/中村(敦))



八方岩展望台にて



和やかに懇親会の後で

＜自然保護委員会＞

講演会「登山道の維持管理と自然環境の保全対策」

河野悠二

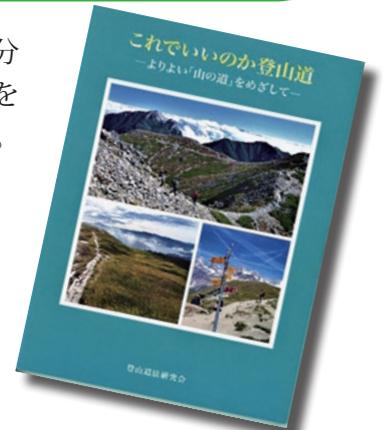


熱心に語る森氏

10月30日オープンイノベーションフィールド多摩国分寺館にて標題の講演会を開催した。参加者は一般と会員をあわせて25名。講師は登山道法研究会副代表の森孝順氏。

講師は環境省に30年勤務し、日本各地を歩いてきた山を中心に話した。近年、森林の荒廃、過疎化、山村文化の消滅や生態系の攪乱・損傷、地球温暖化と生物多様性への影響や利用の多様化（一般化・観光化）、入山者のルールとマナーなどにより山の様相が変わってきており、それは登山道にも影響を与えている。山岳遭難が20年で3倍に増加したが、7割が登山道に起因しているという。登山道は浸食・老朽化・廃道化・管理者不在などで維持管理が難しい。特に、登山道は管理者が曖昧であり、国立公園内の歩道は管理者不在が5割ある。しかし登山道を整備すればするほど管理責任を問われる。実際は、ボランティア活動、協力金などの受益者負担で賄っている。この現状を踏まえ「山の道」の持続可能な利用のために登山道法構想で問題を提起した。ただし、法制化はなかなか難しいのが現状とのこと。

一方、自然環境の保全対策では、ゴミとトイレが問題となる。ゴミは持ち帰り運動で成果を上げた。トイレは環境省の補助事業で3Kトイレの解消が進められているが、今後はし尿の持ち帰り運動を推進する。講演で講師の「登山は不便を味わう方が良い」の言葉が印象的だった。（写真/河野）



同会は報告書「これでもいいのか登山道」を、2019年に第1集、2023年に第2集を刊行

2021年、山と溪谷社が同名の新書（同会著）を発行

＜自然保護委員会＞

三ッ峠アツモリソウ種蒔き

河野悠二

11月9日～10日に三ッ峠にてアツモリソウ種蒔きを行った。参加者は浅香、村上、河野の3名にご指導役の伊藤さんだった。

初日は河口湖駅から三ッ峠登山口へバスで移動し、バス停から歩いて三ッ峠山荘に12時45分に到着した。曇一時晴れの天候だった。昼食休憩後、長年保護活動をされている伊藤さんと一緒に保全地区へ移動した。まず、雑草を鎌で刈り、苔の層を剥してから、アツモリソウの種を蒔き、苔の層を元に戻した。その後、草原上に最初に出てくるクマイチゴの引き抜きをした。クマイチゴが発生すると他の植物の成長を阻害することだ。夕食後は三ッ峠山荘でコンサートを楽しんだ。



アツモリソウの種を撒く



花は6月ごろに咲く

翌朝5時半に起きるも雨と霧で、開運山登頂は中止した。朝食後も雨が止まなかった。伊藤さんと相談し、御巢鷹山方面のクマイチゴ引き抜き作業は中止した。下山後、河口小学校で三ッ峠山荘ご主人中村さんの写真展を鑑賞した。ついでに、もみじ回廊と河口湖湖畔を散策したが紅葉には若干早かった。この時期見るものがあまりないせいか参加者が少ない。活動の継続が危ぶまれるが、保護活動作業は多岐に亘るので多くの参加者に来ていただきたいと思う。（写真/河野）



アツモリソウの種。種からの栽培は非常に難しい

15周年記念講演会

小松由佳氏

ドキュメンタリー・フォトグラファー

2006年、世界第二位の高峰K2（8611m）に東海大学K2登山隊の一員として登頂。日本人女性として初の快挙で、植村直己冒険賞受賞。その後、風土に根ざす人間の姿に魅せられユーラシア大陸を旅し、やがてカメラを手にシリア難民取材し始める。現在はシリア難民だった男性と結婚し、八王子に暮らす。昨年暮れにはアサド政権が崩壊したシリアに入り、元刑務所等取材する。



■日時 / 3月20日（祝） 受付 / 9時半 講演 / 10時～11時45分

■会場 / 武蔵野スイングホール南棟10階スカイルーム

中央線 武蔵境駅北口 左へ徒歩2分

懇親会

■時間 / 12時半～15時 ■場所 / 武蔵境駅ビル2階（南口より入る）

■会場 / 北海道イタリアン・ミアボッカ

会費 / 会員 5800円（講演会・懇親会含） / 一般 1000円（講演会のみ）

申込方法 / 会員は下記の口座に振り込めば参加申し込み済み

ゆうちょ銀行 00270-4-82347

公益社団法人 日本山岳会 東京多摩支部

会員以外の方は下記の総務委員会にご連絡ください

soumu.tama.yama@gmail.com

<安全対策委員会>

講習会「冬山での凍傷・低体温症・雪崩遭難への対処法」 吉川三鈴

11月26日、立川の柴崎学習館において山岳認定医でもある野口いづみ支部長による冬山医療講習会が開催された。参加者は25名（うち安全対策委員5名）。

最初は冬山で起こりやすい凍傷について、スライドで豊富な症例写真を見ながら解説を聞く。凍傷にならないための予防対策と、凍傷になってしまった後の現場での対処と治療についても具体的な方法を聞く。

次に低体温症について、どのような気象状況で起きやすいのか、低体温症になりやすい人の特徴はなにか、予防にはどのような衣類装備が必要かについて解説。事例として2009年7月トムラウシ山遭難と2020年の年末の赤石岳遭難が紹介された。体表面積、筋肉量、脂肪量、年齢などを要因とする体温の奪われやすさが、生死の運命を左右するということが具体例からよくわかった。

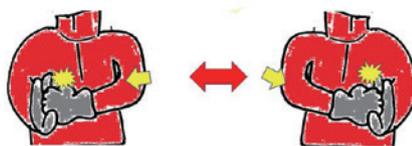
雪崩遭難については「雪崩埋没時間と生存率」について解説があり、雪崩に埋まった場合、一刻も早い救助がいかに重要であるか実感した。窒息を防ぐため、雪崩に巻き込まれたらすぐ「口と鼻を手で覆いエアポケットを作る」「雪崩の表面に出るように泳ぐ」など、重要な対処法も教示した。

最後に雪崩遭難者や低体温症の人の救助方法や心肺蘇生法について詳細に説明。会場では冬山シーズン直前だけに、真剣に講習に耳を傾ける参加者の姿が目立った。

凍傷対策

予防

1人ボクシング



左右の拳で交互に掌をたたき打つ

治療

指の温浴



40度前後の温水に手を浸す。熱過ぎると痛い
(イラスト / 野口講師)

山 行 報 告

〈11月平日山行〉

官ノ倉山 — 信仰を集める「神の倉山」へ —

【日 時】2024年11月14日(木) 【天 候】晴れ

【参加者】7名/中原、SL副島、太田、川島、榊原、松尾、真鍋

【行 程】8:20 小川町駅(バス) = 8:38 ~ 55 和紙の里 → 9:20 登山口 → 臼入山 → 天の峰 → 烏森山 → 不動沢の頭
→ 12:00 ~ 30 官ノ倉山(昼食) → 石尊山 → 北向不動 → 14:15 東武竹沢駅(解散)

【記 録】

JR 八高線と東武線の交差する小川町駅で集合。3名のキャンセルが出て7名での山行となった。イーグルバスで和紙の里まで行き、出発。11月中旬とは思えないポカポカ陽気に気持ちも弾む。奥沢神社の急な石段を登り、衣服調整。ここから登山道となる。登り一辺倒で臼入山到着。標高421.1mで本日の最高峰。そこからアップダウンを繰り返し、山頂標識のあるピークだけでも6座を超える。メインの官ノ倉山344.7mは5目目で低山ながら展望が良い。山頂は貸し切りで、青空と展望をおかずに美味しいランチタイムがとれた。山頂直下に浅間神社があり、堂平山・笠山を真正面に展望が開け、桜の大木の元に祠があった。最後のピークは石尊山344.2m。山頂には相州大山講信仰の石碑と祠が鎮座している。官ノ倉山からの展望で遮られていた山々も見えて、パノラマを楽しめた。下りは鎖場があり、慎重に下った。瀧と呼ぶにはオーバーな気もする不動の瀧は、木製のU字溝から流れていて、冷たくて気持ち良かった。山登りの魅力をコンパクトに楽しめたプチ縦走だった。

(文・写真/中原)



官ノ倉山山頂にて



鎖場を慎重に下る

〈12月平日山行〉

石割山 — 開運の御利益を求めて —

【日 時】2024年12月4日(水) 【天 候】快晴

【参加者】7名/富永、SL齊藤、鬼村、植草、金山、松尾、真鍋

【行 程】7:53 富士山駅 = 9:15 石割山ハイキングコースBS → 9:35 石割山神社PA → 富士見平 → 10:20 ~ 35
石割神社 → 11:00 ~ 30 石割山(昼食) → 12:00 平尾山 → 12:50 大平山 → 飯盛山 → 長池山 →
13:50 大平山登山口 → 14:15 大出山入口BS = 14:30 山中湖BS(解散)

【記 録】

富士急線に乗り継ぐ頃に日の出となり、車窓から赤富士を見ることができた。待合室で始発の山中湖周遊バスを待つが寒い。1時間程、バスに揺られて石割山ハイキングコースバス停に到着。赤い鳥居が見える。400段の石段が続いている。1歩ずつ1歩ずつ登り、やっと8合目の石割神社に着いた。大岩に割れ目があり、3周まわると開運の御利益があるらしい。皆、ザックを置き、狭い石の割れ目をくぐった。ここから石割山までは一息で、期待通りの富士山が山頂で待っていた。遠くに南アルプスの白い峰々も見える。絶景を見ながら昼食をとった。平尾山に向かう道は霜柱が溶け、足元が滑りやすい。進むにつれ更に大きく富士山が見え、開放感があった。眺めの良い東海自然歩道を通り、すすきの原を越えてビュースポットの大平山、飯盛山、長池山と縦走。大出山入口BS近くの山中湖で白鳥のお出迎えがあり、富士山山中湖バス停に到着した。常に富士山が見られるコースだった。

(文/富永、写真/齊藤)

400段の石段を上る



石割神社の大岩の割れ目を3周すると開運の御利益が

石割山の山頂から富士山がよく見える



〈10月定例山行〉

天狗山・男山 — 秋の稜線ミニ縦走、レタス畑と山並みと —

【日時】2024年10月19日(土) 【天候】曇り時々晴れ

【参加者】9名/西山、SL中原、安藤、井上、金山、榊原(さ)、辻、中村(敦)、村岡

【行程】6:30 八王子駅南口(貸切タクシー) = 9:20 ~ 35 馬越峠 → 10:40 ~ 55 天狗山 → 11:50 ~ 12:15 垣越山 → 13:15 ~ 40 男山 → 15:35 男山登山口(下山)

【記録】

清里、野辺山を過ぎて川上村に入るとすぐに北面に連なる隆起が視界に入ってくる。手前の高いのが男山で奥の瘤様の盛り上がりが天狗山だ。馬越峠に着いて、下山口をタクシーの運転手氏に確認して出発。

午前中は曇りがち午後には霧、やがて雨になると予報を得ていたけれど、反して明るい陽がさしている。落葉が進んだ登山道をぐんぐん上がって最初の鞍部で立ち休憩。小さなアップダウンを繰り返す中、赤や黄の秋衣をまとって屹立するピークが眼前に迫る。天狗山だろう。やせ尾根からは眼下にレタス畑、瑞牆山と金峰山と御座山などなど。天狗山基部から岩場が続き、トラロープや補助ロープも所々に。10:40 ひよいという感じで山頂に飛び出る。2名の先行者はもう男山を経て馬越峠へ戻るそうだ。貸切で銘々が山座同定、エネルギー補給、写真撮影。低い雲が垂れ込めて遠望は利かないが青空が雲間に見え隠れ、想定よりもよいものだから満ち足りた気分だ。

さあ、あの男山へ行こう！と、意気を上げて、下りにかかる。岩混じりで気の抜けない急下降、時折男山までの稜線が一望できて胸が高鳴る。樹林帯を上り返した垣越山は、普段着のようなピーク。昼食休憩をとって盛り返した気力と共に進む。岩稜帯が上がったり下ったりしながら向きを変える。展望が開けては感嘆、写真を撮る。振り返れば紅葉した垣越山と迫力の天狗山が座す。ギュギュッと30mほど上がって13:15 男山に立つ。息が上がりかけていた面々が破顔一笑。八ヶ岳の山腹がすぐ横なのにスカイラインは雲の中だ。全天見渡せるから長居したかったがポツポツ来たので13:40に下山。ギュッとした30m下り、分岐からザレ気味の250mを下りると林道終点。結局雨は降りださず、ヘルメットを外して唐松が黄金色に光る緩やかな道を、隊列ほどいて歩き15:35 下山。再来を思う山の一つになった。(文/西山、写真/辻、中原、安藤)



黄金の木立に入っていく



難所を越えて天狗山へ



秋色の天狗山



天狗山山頂で



行く手に見えるは男山



崖は急降下



男山山頂の男性たち

安藤隆生さん



男山山頂のおどけた女性たち

入会早々5月に念願の大杉谷・大台ヶ原に参加、2月は丹沢主脈縦走に参加して『山活』を楽しんでいます。4月には東京新支部が設立予定で、多摩支部とともに首都圏の『山活』が盛り上がりだと思っています。

新人です
よろしく!

〈10月定例山行〉

鍋割山・荒山 — 雨の中、変化のあるコースを楽しむ —

【日 時】2024年10月5日(土) 【天 候】小雨

【参加者】7名 / L山本(曜)、SL清水(茂)、清水(節)、富永、林(理)、松本(賀)、渡邊(理)

【行 程】8:30 前橋駅=9:30 鍋割山登山口→11:30～50 鍋割山→12:40 荒山高原→13:40 箕輪バス停

【記 録】天気の見極めが難しく直前まで迷ったが、登山に支障ある程の雨ではないと判断し、実施を決めた。登山口到着時は霧雨。歩き出してすぐ岩場が現れる。ロープが設置されている所もある。思っていたよりアスレチック感があって楽しい。岩場の急登を登り切ると、クマザサに囲まれた開けた気持ちのよい登山道となる。雨で周りの眺望こそないが、センブリやアキノキリンソウ、リンドウなどが楽しませてくれる。この時期に狂い咲きしているヤマツツジに驚かされる。広い鍋割山山頂で昼食をとるが、体が冷えてくるため休憩は短めにして出発。

ここからの道は晴れていれば北アルプス・谷川方面まで望めると看板に書かれている。荒山高原まで来たが、雨がやむ気配がないため荒山登山はあきらめて荒山登山口へ下りることにした。途中、キノコ



雨は降っても
みな笑顔
鍋割山山頂で

がたくさん生えている。キノコに詳しいメンバーがキノコを採りながら歩く。荒山登山口の先の箕輪バス停横に野菜直売所があった。大根、トマト、さつまいも、群馬名物こんにゃくなど、どれも新鮮で安いので、皆、買い込む。雨の登山のご褒美となった。他の登山者に会わず、山は静かだったが、楽しく賑やかな山行となった。(文/山本)

〈11月定例山行〉

かもんがたけ
掃部ヶ岳

— 紅葉の榛名山を堪能 —

【日 時】2024年11月16日(土) 【天 候】霧時々小雨

【参加者】11名 / 齊藤、SL 鬼村、佐藤、太田、加瀬、金山、倉崎、榊原、清水(節)、東、大和

【行 程】高崎駅 8:30=9:50～55 榛名湖 BS → 10:50 掃部ヶ岳登山口 → 10:50 硯岩 → 11:50～12:20

掃部ヶ岳山頂(1449m) (昼食) → 13:50 杖の神峠 → 14:40～16:40 榛名湖畔 BS = 18:10 高崎駅解散

【記 録】高崎駅では厚い雲が垂れ込め、バスから見える榛名山域の標高の高い山頂は雲に覆われていた。それでも榛名湖畔に到着すると、山域の山々が見えた。湖畔の紅葉も見頃で、掃部ヶ岳は見事に色づいていた。濡れていて落ち葉で滑りやすい。やがて、硯岩との分岐点。展望を見に岩を上った。急登の荒れた木段では、気を使う。山頂近くでは紅葉

は終わり、展望地ではガスで視界不良。息を上げつつ榛名山域最高峰の掃部ヶ岳へ登頂。

下りは、あまり歩かれていない西峰を通り、耳岩を巻き、杖の神峠へ。笹に覆われた急坂の登山道。落葉で足元が見えにくく、木の根に滑りそうになるが、いいペースで下った。予定より早い時間で、杖の神峠に到着。林道に着き、緊張を解き放たれ、1

時間ほど湖畔まで歩いた。湖畔近く、民家が見え始めると見事なもみじの紅葉だった。バスの時間まで2時間あり、暖を求めて食事処で一息。懇談も楽しかった。遠方で、個人では行きにくい山域であり、条件の良くない中だったが、山の楽しさを共有できた。

(文・写真/齊藤)



「ハイ、カモン！」と掃部ヶ岳山頂で

〈12月定例山行〉

御坂の黒岳から大石峠へ — 登り納めは富士山の展望の山 —

【日時】 2024年12月21日(土) 【天候】 晴れのち曇

【参加者】 5名/ 清水(茂)、SL斎藤、中原、加瀬、植草

【行程】 8:08 河口湖=バス=8:35 ~ 45 三つ峠入口→10:00 分岐→10:20 中沢山→11:10 ~ 30 展望台→

11:35 ~ 45 黒岳→12:04 すずらん峠→12:20 破風山→12:40 ~ 50 新道峠→13:20 中藤山→

14:10 不逢山→14:20 ~ 35 大石峠→15:35 ~ 45 大石峠登山口=(タクシー)=河口湖駅 16:05 解散

【記録】 予報は午後から曇り、風も強くなるとのこと。三つ峠入口バス停登山口から板取沢沿いを進む。沢から離れるにつれ傾斜がきつくなり、汗ばむほどだった。分岐を右へ曲がる。急峻な尾根の登りでは所々にロープが設置されている。アップダウンを繰り返し、展望台に到着。富士山の頭には雲がかかっていた。休憩して黒岳へ向かう。黒岳から大石峠への稜線歩きが始まる。少し雪がついた登山道を下り、すずらん峠を通過すると破風山。新道峠にFUJIYAMA ツインテラスがあった。富士山、山中湖が見える写真映えするスポットで、北側の車道から観光客も気軽に来られる。中藤山辺りで富士山は雲に覆われてしまった。時折、強風が吹き、小雪が舞ってきた。右手に釈迦ヶ岳の尖ったピークが見える。

露岩を越えると不逢山へ到着し、程なく大石峠へ出た。明るい草原が広がる。寝転んで休憩。陽が出てきて、暖かく青空になった。素敵なテラスよりも自然の草地の方が合っている。峠から若彦路古道をジグザグに下った。

(文・写真/ 清水(茂)、写真/ 中原)



展望台で富士山をバックに



踊りたくなるツインテラス

〈低山を楽しむ会〉

雷電山・辛垣山 — 青梅丘陵は予想以上にきつかった —

【日時】 2024年11月21日(木) 【天候】 曇りのち晴れ

【参加者】 17名/ 石塚、SL小清水、SL辻橋、SL横関、岡、岡田、川口、河野、小部、菅野、城田、高砂、高田、高橋(郁)、富澤、松田、宮崎(紘)

【行程】 10:00 軍畑駅→10:40 榎峠→11:45 雷電山→12:40 辛垣山(辛垣城跡) 13:15 →名郷峠→ノスザワ峠→三方山→14:45 石神前分岐→16:00 石神前駅

【記録】 本コースは、7年前にこの会ができて3回目の山行で歩いた。登山口の榎峠からすぐに急な登りが始まった。階段状の急坂を黙々と登る。1時間以上かかってやっと雷電山の頂上(494m)に着いた。昼食の時間になっていたが、辛垣山・辛垣城跡までがんばることにした。しばらく下ると辛垣山への道と巻道の分岐で、巻き道を行くという辻橋さ

んにSL横関さんが同行し、その他は全員辛垣山に登ることにした。これがなかなかのきつい登りで、やっとの思いで狭い頂上に着いた。木々に囲まれて展望もない。短めの食事時間を終えて、山城の跡らしい急な下りを苦勞して巻道で待っていた二人に合流。名郷峠から登り返してノスザワ峠を過ぎ、三方山を巻いてさらに下ると石神前駅に下る分岐に出合



う。すでに4時間も歩いたので、ここから下山することにした。

(文・写真/ 石塚、写真/ 高砂)

左・雷電山の山頂で

右・雷電山も辛垣山も登りはきつかった

〈11期登山教室〉

川苔山 — 最後はヘッドランプを付け1時間半歩行 —

【日時】 2024年10月12日(土) 【天候】 晴れのち曇り

【参加者】 29名/受講生17名、スタッフ12名

[A班] 班L西山、班SL小澤(拓)、木谷、高原、田所、ボシエール、水内、三田、SP高田、講師中村(正)

[B班] 班L皆川、班SL広瀬、足立、小野、藤井、毛利、谷貝、渡辺、SP片野、SP清水(節)

[C班] 班L村岡、班SL浅野、内田、小原、曾木、田邊、寺倉、総括L宮崎、山行L中村(敦)

【行程】 8:25 奥多摩駅バス= 8:40 川乗橋バス停→ 8:50～9:10 ミーティング場所→ 10:00～10 細倉橋
→ 11:15～25 休憩→ 12:35～13:05 火打石谷→ 14:20～50 川苔山山頂→ 15:50～16:00
1070m地点→ 17:20 ヘッドランプ装着→ 18:00～10 大根ノ山ノ神→ 19:05 鳩ノ巣駅

【記録】

11期登山教室の下期、第1回目の実習はロングコースの川苔山で、毎年17時ごろからヘッドランプ使用となる。山行前日、「土砂崩れのためにバスが運行できるか不明」とバス会社から連絡があったが、川乗林道で登山者は通れると分かった。念のため落石について、受講生に「いつ落石が起こるか分からない、お喋りしていると音に気付かないこともある」と伝えたので、前半、受講生はいつもより静かだった。

サブリーダーが声掛けし、沢沿いの濡れた岩場、何度も現れる橋に気を使いながら無事に百尋の滝手前の休憩予定地に着く。そこから岩場の登りや片側が切れ落ちている細い登山道を通り、火打石谷へ。ここで昼食を摂り一息入れた。尾根に出ると脚つりや靴ずれの人が出て手当てをする。

山頂では遠望は無かった。ヘッドランプの付け方を指導し、長い下りを歩き始める。舟井戸を過ぎ、靴ずれなどでスローペースの受講生にあわせ



川苔山山頂で

ゆっくり歩き、大根ノ山の神までに50分毎に2回休憩した。17:20、ヘッドライトをつけるよう指示。大根ノ山の神に着く頃には疲労がだいぶ溜まっている人もいるようだった。暗闇の登山道を慎重に下り、鳩ノ巣駅に19:00に到着。下山に時間がかかり、計画から1時間以上遅れた。長時間だったが、無事に下山できて良かった。受講生にとって暗闇を歩く経験は貴重だったと思う。

(文・写真/中村(敦))

mini レポート

【日程】 2024年10月13日

【参加者】 中原、野口(い)

東九州遠征(p.15)最終日は中山仙境。最高峰の高城(たかじょう)でも317mの低山だが、痩せた岩尾根の続く修験の道で、アップダウンと鎖場が多かった。高城の山頂からは展望がすばらしく、低山ながら岩が多い山々と南国の蒼い周防灘の光景をのんびりと楽しんだ。

中山仙境(なかもせんきょう)
国東半島峯道ロングトレイル



無明橋を渡る



鎖場の連続

中山仙境の最高峰
高城(317m)

〈11期初級登山教室〉

六ツ石山 — 山頂は雲の中、錦秋の奥多摩三大急登に挑む —

【日時】 2024年11月16日(土) 【天候】 曇り一時雨

【参加者】 30名/受講生17名、スタッフ13名

[A班] 班L 皆川、班SL 吉田、木谷、高原、田所、ボシエール、水内、三田、SP 高田、SP 辻、総括L 宮崎

[B班] 班L 村岡、班SL 片野、足立、小野、齊藤、藤井、谷貝、渡辺、講師中村(正)、SP 中山、講師中村(正)

[C班] 班L 西山、班SL 浅野、内田、小原、田邊、寺倉、藤原、SP 富永、山行L 山内

【行程】 8:35 奥多摩駅=(バス)= 8:48~9:10 水根→9:30~35 登山口→10:40~55 989m ピーク→

11:50~12:00 トオノクボ→12:15~45 榛の木尾山(昼食)→13:15~35 六ツ石山→

14:25~35 三ノ木戸山分岐→15:45~16:10 絹笠山→17:10 石尾根縦走路登山口→17:50 奥多摩駅

【記録】

天気の見極めが難しい中での実施。奥多摩駅で臨時バスに乗り水根で下車。水根集落への道を登っていくと、奥多摩湖の対岸に彩られた御前山などの山々が見えた。民家の脇を通り抜けて登山道に入る。登り始めからかなりの急勾配で、植林帯の中を歩く。産土神社まで登り、振り返り見ると、急登を歩いていることを実感する。植生が変わり彩られた雑木林になると、皆に笑みがこぼれる。989m ピークではしっかりとエネルギーを補給。2名に靴ズレ予防処置を施す。標高1000m 辺りから霧に包まれ、次第に落ち葉が多くなり足元に注意が更に必要になる。トオノクボに着くと小雨となりレインウェアを着用し、榛の木尾山まで登る。昼食の間だけ雨は上がり、出発時には降り出す。



六ツ石山の山頂は小雨で真っ白!

雨上がりの紅葉のトンネルを下る

本来なら富士山を眺めながらの尾根歩きである。山頂に着くが眺望なく真っ白。カラフルなレインウェアが映えた集合写真となった。山頂直下は勾配がきつく足元に注意する。三ノ木戸山分岐まで下ると少しなだらかとなり、雨も上がる。十二天山直下の登山道は荒れており、巻いて植林帯の中を歩くと、その先には錦に彩られた紅葉のトンネル。一番のご褒美となった。絹笠山で最後の休憩をとる。スタッフ3名が先行して、稲荷神社直下の悪路にフィックスロープを張る。薄暗くなりヘッドライトを装着して1人ずつ行く。声掛けや誘導によりスムーズに通過出来た。奥多摩駅まで、気の緩みもなく無事に下山した。急登の脚にかかる負担や、晩秋の雨の冷たさ、美しい紅葉など、格別な秋山体験となったと思う。

(文/山内、写真/辻)



ガスに煙る奥多摩湖



植林帯を元気に上る

〈11期初級登山教室〉

高川山 — 寒波の合間、冬の山歩き実習 —

【日 時】 2024年12月21日(土) 【天 候】 晴れ

【参加者】 30名(受講生17名、スタッフ13名)

[A班] 班L中村(敦)、班SL高岡、小原、曾木、高原、田邊、藤原、三田、渡辺、SP辻、SP高田、総括L宮崎

[B班] 班L山内、班SL吉田、小野、木谷、齊藤、田所、水内、SP小澤、講師野口

[C班] 班L皆川、班SL浅野、足立、川栄、寺倉、ボシエール、毛利、SP宮崎(順)、山行L西山

【行 程】 9:00 初狩駅→9:25～35 登山口→10:15 男坂女坂分岐→10:25 沢ルート合流→10:45 男坂女坂合流
→10:50～11:00 休憩地点→11:15～25 高川山山頂→古宿分岐→11:40～12:40 分岐(休憩・講習)→
古宿分岐→13:30～14:00 シラノサワ登山口手前(講習)→14:45～55 浄泉寺→15:00 禾生

【記 録】

初狩駅を9:00に出発。中央線のガード下をくぐり自徳寺の墓苑の横を上り登山口へ。沢ルートを分けて尾根にとりつくとも最初から急だ。適地がないが、慣れない冬山の衣服調整を慮り、各班が適宜休憩を入れていく。男坂女坂分岐から女坂をすすみ、沢ルートと合流して、回り込んで尾根に戻る。途中谷筋の崩落箇所にはフィックスロープが取り付けられており慎重に通過。男坂と再び出合う尾根で冬の木立の葉が落ちて中央線沿線の山々をとらえることができた。

一上りすると樹林の中、平坦地890m地点。風もなく陽だまりの中なごみムードの一休み。15分ほどして山頂に上がれば、満員御礼の人混み。360度の山並みが広がっているが、富士山は雲が覆いかぶさり半身だけ見せていた。早々に



下りて、鞍部の分岐からは登り返して休憩地点へ。

宮崎講師がパッキングのレクチャー



陽光を浴びて踊るように？林の中を進む

予定より50分早いので、アイゼン装着練習をじっくりする。昼食後、チェーンスパイク、軽アイゼンを着ける。実際の装着時にはこんなにコンディションがいいわけではないとの言葉を実感するのは、石割山になるのだろうか。分岐へ戻り、山腹をジグザグしながら下りて沢筋をたどり、50分ほどで山道が終わった所で、パッキングの講習。リーダー、講師のパッキングを公開してもらい、説明を聞く。中身以上に入れ方や入れ順なども参考になる。古宿の集落を過ぎて車道にでると間もなく浄泉寺に着く。15時前、境内でミーティング。暖かい一日で負荷も少なく、余力を残す山行だった。(文/西山、写真/辻)



〈中級登山教室〉

御坂の十二ヶ岳 — 核心は十一ヶ岳の下りだった —

【日 時】2024年10月19日(土) 【天 候】曇り一時雨

【参加者】11名/スタッフ4名:L中村(正)、近藤講師、石川、山内

受講生7名:L高岡、SL佐藤(は)、浅野、祢津、中山、山本(曜)、山下(和)

【行 程】9:00 河口湖駅=バス= 9:34 毛無山登山口バス停→ 9:55 毛無山登山口→ 10:43 ミネ山→ 11:41 ~ 12:15 毛無山→ 13:16 六ヶ岳→ 15:30 十二ヶ岳→ 17:40 桑留尾登山口→ 18:00 いずみの湯駐車場=(タクシー) = 18:25 河口湖駅

【記 録】毛無山登山口バス停を出発し、文化洞トンネルの脇から道標に従って登山道へ進む。毛無山手前で松の木越しに雄大な富士山が現れるが、山頂には笠雲がかかっていた。

毛無山山頂で昼食をとり、ヘルメットとハーネスを装着。十ヶ岳から岩場登りが本格化し、慎重に通過。十一ヶ岳から十二ヶ岳手前の吊り橋までの、核心の下り急斜面(クサリ場)を前に雨が降り出す。補助ロープを出し、中村リーダーがビレイし、山内さんが手本となって下降した。その先の金属製の吊り橋は濡れて滑りやすくなっており、山内さんから助言があった。全員が下降し終わるまで時間がかかり、計画より約1時間遅れて十二ヶ岳登頂。下山では暗くなりヘッドランプを装着した。最終バスに間に合わず、タクシーで河口湖駅に向かった。中級登山教室がスタートしてから半年になり、仲間意識も深まってきたと感じた。(文/高岡、写真/受講生)

十二ヶ岳山頂にて

滑りやすい吊り橋



〈中級登山教室〉

塔ノ岳 — 絶好の登山日和に鎖場で渋滞の洗礼 —

【日 時】2024年11月23日(土・祝) 【天 候】快晴

【参加者】13名/スタッフ4名:L中村(正)、野口(い)講師、中原、広瀬

受講生9名:L山下、SL佐藤(は)、浅野、小澤(拓)、高岡、中島、中山、祢津、山本(曜)

【行 程】7:20 秦野駅=バス= 8:40 ヤビツ峠→ 10:10 ~ 20 ニノ塔→ 10:37 ~ 42 三ノ塔→ 11:19 ~ 40 鳥尾山 → 11:58 ~ 12:53 行者ヶ岳→ 13:02 政次郎ノ頭→ 13:48 ~ 51 木ノ又小屋→ 14:18 ~ 35 塔ノ岳→ 16:05 ~ 10 駒止茶屋→ 16:45 ~ 17:00 見晴茶屋→ 17:50 大倉バス停=バス= 18:30 秦野駅

【記 録】絶好の上山日和で秦野駅でヤビツ峠行きバス停は長蛇の列で臨時バスが6,7台出た。ヤビツ峠着がばらけて、10分遅れて8:40出発。ニノ塔、三ノ塔と順調に歩き進める。三ノ塔から表尾根が塔ノ岳山頂までいくつものピークを連ねて伸びているのが見えた。富士山、南アルプス、箱根、大野山、江ノ島、大島の眺望もあった。気持ちよく歩き、鳥尾山で昼食をとる。ここまでは順調だったが、行者ヶ岳の先で登山者の

列が止まる。多数の慣れない登山者で、先の鎖場で渋滞になっており、通過に小1時間かかる。寒かったら身体が冷え切るところだった。14:18、塔ノ岳山頂に1時間遅れで到着。そそくさと下山へ。大倉尾根も混雑してペースが掴みにくい。16:05、駒止茶屋でやっと休憩。見晴茶屋で2名の膝痛対処。日没後ヘッドランプをつける。街の灯りが輝き夜景が美しい。17:50に大倉バス停着。天候予測、休憩の取り方などを学ぶことの多い山行だった。(文/浅野、写真/中島)

塔ノ岳山頂にて

鎖場の下り



他 支 部 交 流 山 行

＜青森支部と新緑の雲取山に交流ハイク＞ 太田雄三

5月17日～19日、青森支部の須々田支部長他3名の希望によって、当支部の太田、柏木が雲取山に交流ハイキングを実施した。前夜、奥多摩BCにて八甲田でお世話になっているJACアルパインスキークラブ会員も加わり、10名でウェルカム懇親会を開催した。

鴨沢より堂所経由で雲取山を目指し、天気にも恵まれ山頂より富士山を展望できた。青森の皆さんは「なま富士」と言って喜んでくれた。翌日、三条の湯に下山し、温泉と美味しい食事で大満足した。東京の山の良さも感じていただけたのではと思う。

日本山岳会には33の支部があるが、他支部との交流で山の楽しみも広がることを実感した。



「なま富士」と
客人が
喜ばれて



楽しい語らい



安東氏と大崩山山頂で

＜東九州支部に案内されて

おおくえさん

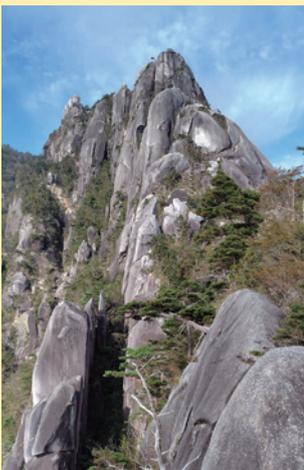
大崩山とサマン谷沢登り＞ 野口いづみ

晩餐会で東九州支部の安東支部長と同席したことから、10月10～13日、安東氏に東九州の山を案内していただけることになった。安東氏はコロナ罹患直後で、アマラブダム遠征直前だったが、野口と中原に付き合ってくださいました。

1日目は憧れの大崩山（1643m）。瑞牆山の規模を大きくしたような、登り応えも見応えもある山だった。登山口の祝子川（ほうりがわ）は水量が予想より多かったが無事渡渉。ワク塚尾根を登る。「袖ダキ」を攀じ登ると、ダイナミックな花崗岩の奇岩がそそり立って連なっていた。坊主尾根分岐からは静かで穏やかな樹林帯を歩いて山頂へ。下山の坊主尾根はハシゴが20ヶ所位あり気が抜けなかった。

2日目は祖母山南面の川上溪谷サマン谷で、「短くて面白い」と聞いてついて行ってしまった（！）。佐藤彰さんもアテンドして下さった。花崗岩の川床はきれいでナメ滝もあったが、釜あり、ゴルジュあり、チョックストーンありの中滝の連続で、濡れたり泳いだりのアドベンチャーだった。下山後に登山口で先行パーティーに会ったが、偶然、広島支部の副支部長一行だった。支部の懇親会はコロナ蔓延で中止。

他支部の方に案内していただいたり、登山を共にし、支部の交流ができることは素晴らしいことと思う。皆さんも機会があれば、是非、交流の機会を持っていただきたい。



ワク塚岩峰群



展望所から



腰まで水に浸かって
水中突破の中原さん



サマン谷で

多摩支部の人々 (第10回)



よしとみ
大蔵 喜福

人生、山三昧。これからは山へ恩返し

18歳で岩登りに目覚め、加藤兄弟、今井通子らにあこがれてJECCに入会。21歳でヨーロッパアルプスへ。25歳でアメリカ大陸へ行き、ヨセミテ等で登攀。28歳でネパールヒマラヤへ。ダウラギリⅡ～Ⅲ～Ⅴ峰交差縦走登山を企て、Ⅴ峰から世界初の縦走に成功。いろいろあってⅤ峰7618m 2度登頂、Ⅲ峰7715m 2度登頂、Ⅱ峰7751m 登頂というユニークな記録をつくる。1983～4年に冬期チョモランマ北壁(8848m)に世界初挑戦、冬期ヒマラヤのパイオニアを目指しナンガパルバットやアンナプルナⅠ峰にも冬挑戦。1985～6年、冬期チョモランマ北壁再挑戦し、8450mは最高到達地点記録としていまだ破られていない。1987年北朝鮮白頭山(2750m)鴨緑江ルートを冬期初登。ほかにチョモランマ北稜、シシャパンマ、マナスル等登頂。チョー・オユー(8201m)には4回登頂。1990年からデナリ(6194m)に気象観測登山隊として行き、2019年まで30年間で27回登頂した。日本山岳会では科学、自然保護委員会で活動、常務理事等を歴任し、高尾の森づくりの会にも所属する。2000年に「マッキンリー山の高山気象研究と隊員育成」で秩父宮記念山岳賞を受賞した。

2019年、30年続いた気象観測は、アラスカ大学プロジェクトとして報告書を学者らとまとめ、私のデナリは終了とし、思いを馳せていた南アルプス南部信州側の遠山郷に移住した。生まれは飯田だが、UターンならぬIターンである。

今、私は遠山郷で、お世話になった山への恩返し？小屋もトイレもない山域で、“何も無い！を生かす『エコ登山』”を標榜し、山岳高原観光地域づくりに邁進している。すべてがマイナスからのスタートなので乗り越えなければならない障壁が山ほどある。もともと上級者向け？とレッテルを貼られている赤石以南の聖岳や光岳、池口岳等の山域である。南ア南部信州側の登山者は北アの1/100ほどである。登山口までが深く遠いし、頂上までの標高差は1800～2000mを越す。多くの人が入らないから、大自然、特に原生林の巨木や、高山植物の固有種の多さ、鳥や動物たちの活発さは他に比類がない。

そんな自然を誰にでも体験してもらうために考えたのが、ヒマラヤ等で行っているテントのシェアと、アラスカ・デナリ峰などで実践されている排泄物のテイクアウトである。5年前に一般社団法人南信州山岳文化伝統の会を立ち上げ、飯田市、長野県、環境省、林野庁、観光庁等との折衝などを経て、国や市の土地を借りた。聖岳の西沢渡(1100m)と光岳へのルート上、易老岳面平(1480m)の2か所にレンタルテント・キャンプ場、そして、聖岳に1か所、光岳2か所にトイレブースを設置した。遭難救助安全対策として、地域専用のコンパス登山届やココヘリ用ドローン捜索チーム等、安全対策の強化にも力を注いだ。

これから先、もうあまり時間はないが、未来の山の事を考えるのはなんとも楽しい。興味あることは実行に移したいし、山も体が利く限り冬山でも登りたい。



'79 ダウラギリ 7618 m頂上



'06 デナリウエザーリサーチ
自ら構築した観測機器と



'07 エベレスト頂上にて



レンタルテント・キャンプ場

編集部からコメント大蔵さんの登山家としての業績のすばらしさをあらためて知る思いです。本支部では、コロナ前まで実施されていた高尾599ミュージアムと共催の高尾山親子登山教室講師として活躍されました。昨年、NHKの光岳の番組に変わらぬタワシ髭で登場。新天地でも持ち前の馬力でエネルギーにご活躍で何よりです。

★の数は「体力 / 技術」を示します

〈山行委 / 定例山行〉

◆黒斑山 2404 m 3/8 (土) 体力★★ / 技術★★★
 雪化粧した浅間山を望む。集合 / 8:30 佐久平駅、(タクシー) = 高峰高原ビジターセンター→車坂峠→車坂山→コマクサ展望台→トーマの頭→黒斑山→トーマの頭(中コース)→車坂峠→高峰高原、歩行時間 / 4h45m、申込 / 古谷、締切 2/21 (金)

◆小野子山 1208m・十二ヶ岳・1201 m 4/19 (土) 体力★★ / 技術★★★
 上越国境の山々の展望台へ。集合 / 8:45 JR 渋川駅、9:00 (タクシー) = 赤芝登山口→小野子山→中ノ岳→十二ヶ岳→小野上温泉駅、歩行時間 / 5h50m、申込 / 西山、締切 4/4 (金)

◆権現山 1312m (上野原) 5/10 (土) 体力★★ / 技術★
 静かな新緑の山を楽しむ。集合 / 8:15 JR 猿橋駅、8:23 (バス) = 浅川→浅川峠→権現山→和見分岐→16:02 初戸 = (バス) = 上野原駅、歩行時間 / 5h30m、申込 / 内藤、締切 5/1 (木)

◆赤指山 1332 m (奥多摩) 5/31 (土) ~ 6/1 (日) 体力★★★★ / 技術★
 展望の良い峰々を越える。集合 / 7:50 奥多摩駅、1 日目 / 7:56 (バス) = 峰谷バス停→赤指山→千本ツツジ→七ツ石小屋泊、2 日目 / 七ツ石小屋 6:30 →千本ツツジ→高丸山→日蔭名栗山→水根山→奥多摩駅、歩行時間 / 1 日目 5 h 10 m、2 日目 8h50m、申込 / 富永、締切 5/9 (金)

〈山行委 / 平日山行〉

◆石老山 702 m 2/19 (水) 体力★ / 技術★
 奇岩・怪石と展望を楽しむ。集合 / 8:15J R 中央線相模湖駅、8:37(バス) = 石老山入口バス停→顕鏡寺→八方岩→融合展望台→石老山→大明神展望台→プレジャーフォレスト前バス停、歩行時間 / 4h15m、申込 / 鬼村、締切 2/5 (水)

◆身延山 1153 m 3/27 (木) 体力★ / 技術★
 富士山を見ながら、枝垂桜目指して参道を降りる。集合 / 11:25 身延山バス停 (中央道高速バス 11:16 着) = (バス) = 久遠寺駅 = (R W) = 奥の院駅→南展望台→三光堂→久遠寺駅田印→身延山バス停、歩行時間 / 4h、申込 / 鬼村、締切 3/1 (土)

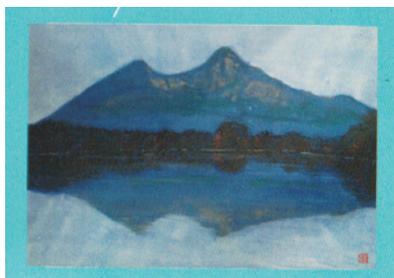
◆棒ノ嶺 969 m (長沢背稜系) 4/10 (木) 体力★★ / 技術★
 晴着をまっとしてお待ちしております。集合 / 7:20JR 青梅線川井駅バス停 = (バス) = 清東橋→奥茶屋→山の神→棒ノ嶺→(ピストン下山)、歩行時間 / 4h25m、申込 / 副島、締切 3/20 (木)

◆富岡アルプス (神成山九連峰) 5/22 (木) 体力★ / 技術★
 日本一きれいなハイキングコースを歩こう。集合 / 10:00 上信電鉄 神農原駅、ハイキングコース入口→龍王山→ミニ博物館→展望休憩所→吾妻山→西登山口→宇芸神社→神農原駅、歩行時間 / 3h40m、申込 / 清水 (茂)、締切 5/12 (月)

◆富士山須走口 5 合目 (2000 m) 6/4 (水) 体力★ / 技術★
 季節限定「まぼろしの滝」と新緑の富士五合目散策。集合 / 9:40JR 御殿場駅 = (タクシー) = 須走口 5 合目→小富士往復→まぼろしの滝往復→須走口 5 合目 (タクシー) = 御殿場駅、歩行時間 / 3h30m、申込 / 高砂、締切 5/20 (火)

第 34 回

山好きの山の絵展



会期：2月16日(日) ~ 27日(土) 10時 ~ 18時
 (初日は11時45分から / 最終日は16時30分まで)

会場：有楽町 東京交通会館 2F ギャラリー
 千代田区有楽町 2-10-1 ☎ 03-3215-7962

出展支部員：笠原、坂井、清水 (節)

田中、長澤、茂呂

皆様のご来場をお待ちしています。

連絡先

古谷 和幸	kazuyuki.furuya@gmail.com
西山 さより	okabasaku3911@gmail.com
内藤 誠之郎	siro7110@yahoo.co.jp
富永 真由美	muget.m30@gmail.com
鬼村 邦治	onimura@jcom.zaq.ne.jp
副島 一義	t9a8k8a8@gmail.com
清水 茂美	bunta.nanako.aitaiyo@gmail.com
高砂 寿一	toshikazu001@me.com

会 務 報 告

支部連絡会議が開催される

2月19日に表記会議が関西支部主催でZoomにて開催された。主な議題として、晩餐会について会場レベルを下げる、立食にするなどの提案があった。支部連絡会議の開催について、年に一度は顔合わせ会議、土日の開催などの希望があった。経費削減案として、会報「山」の隔月刊行とメール配信、『山岳』は購入希望会員にだけ頒価で配布という提案もあった。本部から、令和8年度全国支部懇談会と120周年記念国際シンポジウムの企画が提示された。

幹事会議事録（重複は省略。支部HPの議事録を参照）

【出席】野口、近藤、太田、辻、村岡、河野、川瀬、中村（敦）、石井、清水（茂）、西山、富永、（監事）竹中、小尾
【欠席】（169回）石井、川瀬、（170回）村岡
【会場】（169回）立川市女性総合センターアイム第2学習室
（170回）立川市こども未来センター102室
（171回）同202室

■第169回幹事会■

日時：2024年10月15日（火） 18:30～20:40

〔野口支部長挨拶〕

9月末に本部で東京新支部結成準備の懇親会があった。来年度に新支部に異動する会員はかなり多いと予想される。

〔報告事項〕

（近藤 / 事務局）未精算の支部交付金の連絡あり、確認する。
（太田 / 財務）支部助成金入金。勝又純子氏が財務委員に就任。
（辻 / 総務）最新の支部規約規程類を9/21送付済。
（西山 / 山行）定例 / 10月「天狗山～男山」(p.8)、「荒山・鍋割山」(p.9)。松尾氏委員退任。
（河野 / 自然保護）予定：自然保護講演会、自然保護全国集会等。
（中村 / BC運営）10月「ハイキング & 座禅会」(p.4)、11月「芋煮会とハイキング」(p.4) 実。9月：一般来室者2名。
（近藤 / 登山PT）11期教室：9月「上高地・岳沢」(58号)、10月「川苔山」(p.11)、11月「六ツ石山」(p.12)。自主トレ：9月「雲取山」予定。懇親山行：「大菩薩嶺」(p.1)。受講生20名全員から下期継続の申込と受講料入金済。
（河野 / 野火止PT）定例作業、運営会議：9/24、10/13 下草刈り等。9/18「道具の使い方」講習会。
（石井 / 山岳古道PT）3コース報告書取り纏め中。4古道の報告書「リード」は9月中旬に本部送付。

〔協議事項〕

1 名簿について

（辻）総務委員会の提案は、役員・委員会名簿、各種連絡先の掲載を実施し、会員名簿は作成・配布しない。（太田）氏名・会員番号・居住地を載せる。（近藤）本部会報「山」の個人情報はHPでは白紙になっている。（西山）名簿に名前があることで山岳会会員の実感が湧く。（近藤）名前を載せる事や写真をいやがる人もいる。（中村）2～3年前に名簿に載せた以外の人だけに同意を取れば良いのではない。（野口）考えが変わっているかもしれないので、全員に同意を取る必要がある。（村岡）名簿の欲しい人は郵送料を払う。（辻）名簿の悪用を防ぐために、会員番号、名前、居住市区町村のみ。一斉同意取得で拒否された場合は載せられない。総務委員会の手間と郵便での返信コストなどが膨大になる。（野口）幹事会で決められるものではない。→結論は総会に諮ることになった。

2 15周年事業について概略説明。

3 その他（太田）11月にルームの積立金協議。

〔監事コメント〕

（竹中）積立金の使い道は会員のメリットになるように考えてほしい。（小尾）郵便料金の値上げに工夫して対処してほしい。

■第170回幹事会■

日時：2024年11月19日（火）18:30～21:20

〔野口支部長挨拶〕

10/20 三支部懇親山行は田部井さんの命日で、田部井さんがリハビリで歩いた「日和田山～物見山」を歩いた (p.3)。

〔報告事項〕

（近藤 / 事務局）年次晩餐会の申し込みの件。
（太田 / 財務）10月に逝去された会員1名の年会費は未納だが請求権を放棄する提案あり、承認。晩餐会の参加費徴収は財務委員会が担う。経費精算書は幹事会で財務担当者に提出が原則。
（辻 / 総務）新名簿管理マスター検討中。HPの支部入退会等の入力欄の本会入会申込欄へのリンクをITC委員会へ依頼する。（辻）個人情報保護の観点から支部のHPの掲載情報の分類の変更が必要。会員のみへのアクセスへの移行として新入会員向け取説、幹事会議事録が承認された。（野口）会報たまは広報の役割もあり各支部にも配信している。支部員以外の閲覧も可としていきたい。（辻）個人情報管理の勉強会を提案し、承認。（石井）個人情報とはどの項目をどう目的で使うのか明示することが要件。（辻）15周年で記念品は作らない。
（野口代理 / 会報広報）11/4に会報たま「58号」の配送。会員205名含む227件に会報を配送。PDF版メール添付配信は会員80件、全国支部32件、事業委員会。支部HPへも掲載。メールへの移行が今月30名増で、約5000円の経費削減。
（近藤 / ICT）HPではSNSはうまく作動しないことがわかった。（西山）山行委員会の資料を保管にグーグルワークスペースを利用希望。（近藤）財務と総務委員会にアドレスを付与したを順次対応。Gメールアドレスの取得が煩雑だが独自のワークスペースを作ってもよいと考える。
（西山 / 山行）定例 / 10月「天狗山～男山」(p.8)、11月「掃部ヶ岳」(p.9)、平日 / 11月「官ノ倉山」(p.9)。リーダー講習会 / 10月「日和田山」、11月「滝子山」寂梢尾根。ユースクラブ報告：9/28～29 東海学生連盟主催のゴザフェスあり、2名参加。
（河野 / 自然保護）10/30 登山道法の現状などについて講演 (p.5)。11/9-10 三ツ峠アツモリソウ保護活動 (p.5)。
（川瀬 / 安全対策）11/2 東京都山岳連盟救助隊「秋の安全登山キャンペーン」が川苔林道細倉橋にて実施。対象登山者70名程で計画書未提出者には記入提出してもらった。BCへ移動し芋煮会参加。2/16 登山技術講習会、3/1 上級救命講習検討。
（中村 / BC運営）11/9「奥多摩ハイキングと芋煮会」(p.4)。12/10 北海道支部3名宿泊予約。下水道工事費用の支払が完済したがドア修繕等の支払があり減額なし。電気料金は減額。

会 務 報 告

(近藤/登山PT)11期教室:10月川苔山(p.11)、11月「六ツ石山」(p.12)。懇親山行(p.1)、中級教室:10月「十二ヶ岳」(p.14)。(河野/野火止PT)10/22・11/10下草刈り、定例作業などと運営会議。東京都に依頼して11/21、ネット柵の取替作業。

(石井/山岳古道PT)脇往還ルートの踏査予定中

〔協議事項〕

1 ルームの積立金について

(太田)積立金約(132万円)による不動産購入は非現実的なので「緊急予備資金」するように規約改正を提案する。(支部長)創設当初の目標を取り下げる必要はない。広島支部は登山教室で収益を得てルームを作った事例もあり見果てぬ夢というわけでもない。(近藤)太田と同意見。総会マターとする。(竹中)ルームは15年継続したひとつの夢で目標だけでもある方がいい。(石井)ルームをもつという「目標」と「お金」は切り離して考える。目標は取り下げない方がいい。(小尾)別資金に充てるとすぐに消失してしまう。ルーム確保を目標とすることは大事。(太田)幹事会総意はルーム積立金の継続とする。総会で質疑がでたら、継続積立し、機会を得た時点で敷金などの準備金として使用すると説明する。

2 2025年度予算請求書・事業報告書について

(太田)予算案で支出が超過しているの、各委員会で予算請求書を支出減か収入増か再検討してほしい。

3 多摩百山更新作業会の立ち上げを紹介。

〔監事コメント〕

(竹中)2025年度の事業計画・予算請求書の提出など始まった。

(小尾)東京新支部による会員減になると会費収入も減る。引き留めたりして会員減にならないように尽力しよう。

■第171回幹事会■

日時:2024年12月17日(火)18:30~20:10

〔野口支部長挨拶〕12/7に本部晩餐会があった(p.2)。

〔報告事項〕

(近藤/事務局)晩餐会記念山行参加者は少なかった(p.3)

(太田/財務)ルーム積立金の目標額の目安となる見積りを作成。

(辻/総務)HPの新入会員向けの取説、幹事会議事録は会員ページに移動。「会報たま」は一般ページに残す。(野口)本部の会

報は退会・入会者氏名を出している。(辻)弁護士に個人情報の講義を依頼中。新名簿管理マスターの検討中。講演会と懇親会企画検討中(p.6)。4月新歓ハイクは山行委員会の15周年記念懇親山行と合同で実施。6/7総会、6/25か26新入会員オリエンテーション予定。総会后、名簿の作成。

(近藤/ICT)11/18多摩百山記事改修の会合開催。リーダー近藤、事務局皆川、WGメンバー募集。総務委員会より規約・取説について依頼があり、会員専用のサイトに移行し、様子を見る。

(西山/山行)定例/11月「掃部ヶ岳」(p.9)、平日/11月「官ノ倉山」(p.7)、12月「石割山」(p.7)。山行委員リーダー講習会1月「天狗岳」、2月「日光白根山」、3月「横岳・硫黄岳」。

(河野/自然保護)11/16日立中研庭園・殿ヶ谷庭園・お鷹の道散策、5/15チョウ観察 6/29-30尾瀬散策等。

(石井代理/安全対策)11/26「冬山の医療講座」(p.6)。事業計画案の作成。

(中村/BC運営)1/13「氏神様初詣と奥多摩BC開き」。12/28大掃除、冷蔵庫買換え済。

(近藤/登山PT)11期教室:11月「六ツ石山」(p.12)、12月講座「冬の山歩き」と懇親会。12期カリキュラム作成。中級教室:11月「塔ノ岳」(p.14)、12月座学(冬山の装備・技術など)。

(河野/野火止PT)定例作業、運営会議11/26下草刈りなど。12/8里中講師と野鳥観察後、伐採・伐採材の集積。12/4環境

アドバイザー福嶋司氏講習。12/11野鳥観察のレクチャー里中氏。12/14東京都環境公社主催「保全活動の保全法」講習会。

(石井/山岳古道PT)GPSログデータ・写真の取り纏め法検討。〔協議事項〕

1 2025年度予算に関して

(太田)各委員会の代残案見直しで超過は¥418,530から¥288,330になった。繰越剰余金を不足分に充当したい。剰余金の50%ルームの積立、25%収益事業費、25%剰余金になる。ルームの積立の目標額を検討してほしい。(石井)収入の見込みを考える必要あり。(野口)2024年度の予算はトントンだったのに、なぜ来年度は赤字なのか。(太田)値上げの影響。

〔監事コメント〕

(竹中)人生100年時代のアンケートを提出してほしい。(小尾)新年度予算、皆様の苦勞を察した。

2024年10月~12月

会員数 (総務委員会)(人数)

	総会員	通常会員	準会員	支部友
10月末	297	244	49	4
11月末	298	245	49	4
12月末	299	246	49	4

会費入金状況 (財務委員会)(人数)

	入金者数	未納者数	備考
10月	282	18	299
11月	285	17	299
12月	287	17	300

登山計画受理・検討件数(安全対策委員会)(件数)

月	支部	同好会	個人	合計
10月	14	0	10	24
11月	9	1	6	16
12月	3	0	15	8
合計	26	1	21	48

会員移動(総務委員)

10月末日	入会	1名	古橋勇作(A0636)
	退会	2名	村上真弓(A0456) 松澤節夫(8336)2024/10/19ご逝去
11月末日	入会	2名	富永基久(17369)、 近藤壮一郎(17374)
12月末日	入会	1名	要加月(17344)、金坂淑子(17367)
	退会	1名	宮川清彦(6886)2024/12/18ご逝去

BC利用状況(BC運営委員会)(人数)

	宿 泊			日帰り・一時利用(休憩)		
	会員	会員外	合計	会員	会員外	合計
10月	10	0	10	0	0	0
11月	1	0	0	17	5	22
12月	1	2	3	0	0	0
R6年度合計	32	2	34	79	10	89

カレンダー (2025年2月~5月)

日程	山行	イベント(講座・講演)
2/15(土)	11期登山教室「入笠山」	
2/16(日)		登山技術講習会(ロープ活用法)@あきる野市
2/19(水)	平日山行「石老山」	
3/1(土)		上級救命講習@奥多摩消防署
3/8(土)	定例山行「黒斑山」	
3/8(土)~9(日)	11期登山教室「三ツ峠山」&修了式	
3/20(木・祝)		15周年記念講演会「登山家・写真家、小松由佳氏」と懇親会
3/27(木)	平日山行「身延山」	
4/2(水)		12期登山教室開講式、講座「山の歩き方」
4/3(木)		春の観察会(片倉城址公園)
4/6(日)		BC「奥多摩山開きとハイキング」
4/9(水)		12期登山教室講座「登山装備全般」
4/10(木)	平日山行「棒ノ嶺」	
4/12(土)	15周年記念山行&新歓ハイク	
4/19(土)	12期登山教室「三頭山」	
4/19(土)	定例山行「小野子山・十二ヶ岳(上越国境)」	
5/8(木)		12期登山教室講座「山の医療とトレーニング」
5/10(土)	定例山行「権現山(上野原)」	
5/14(水)		12期登山教室講座「地図の読み方」
5/15(木)		自然保護「チョウの観察会」
5/22(木)	平日山行「富岡アルプス」	
5/27(火)		山岳遭難防止講演会 19時~(安全対策委員会)
5/31(土)	12期登山教室「御前山」	
5/31(土)~6/1(日)	定例山行「赤指山(奥多摩)」	

会報広報委員会 お知らせ

次号60号は2025年5月発行予定で、原稿締切は3月末です。原稿は本号を参考に書式を合わせてください。写真は本文とは別にキャプションを付けて、サイズは500KB以上でお送りください。委員会・山行報告、ミニレポ、エッセイ等お寄せください。

会報のPDF版へ 移行のお願い

会報は、紙の会報と、メール配信されるPDF版(HPでも見れます)があります。昨今、送料が高騰し、支部財政に影響を与えています。PDF版に移行していただける方は下記へご連絡ください(村岡)。

moka@jac.tokyo



編集後記 15周年記念講演会・懇親会が迫ってきました。小松由佳氏の講演と北海道イタリアンの懇親会は期待できます。皆さま、是非ご参加を！今号では支部交流山行を扱いましたが、他支部と交流することで山の世界が広がります。4月に発足予定の東京新支部と東京多摩支部はタグを組んで、双方の発展を目指しましょう。(野口いづみ)

SINCE 1975
mont·bell
ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております

モンベル・ウェブサイト www.montbell.jp

株式会社 **モンベル** ☎0088-22-0031 📠06-6536-5740

「会報たま」59号

発行所 公益社団法人日本山岳会
東京多摩支部
〒188-0011 西東京市田無町4-11-11
Email: izumi_noguchi@yahoo.co.jp
会報広報委員会
村岡庸こ、野口いづみ、石川さとみ、吉川三鈴、
嶋田恵美子、白川まり、祢津尚美
協力/グリーンカ工房

COCO HELI
電波を使った検索で
早期発見
ココヘリ

8分でわかる
ココヘリ↓

003498-043
www.coco-heli.co.jp

登山用品の専門店 ☎0422・38・9234

山 幸
やまこう

靴の
無料診断
痛い! 当たる!
直します!
電話で
ご予約を

オリジナル軽登山靴
税込 ¥19,250~

武蔵境駅北口 駅前ビル2階
営業時間(水曜定休)
11:00AM~19:00PM